
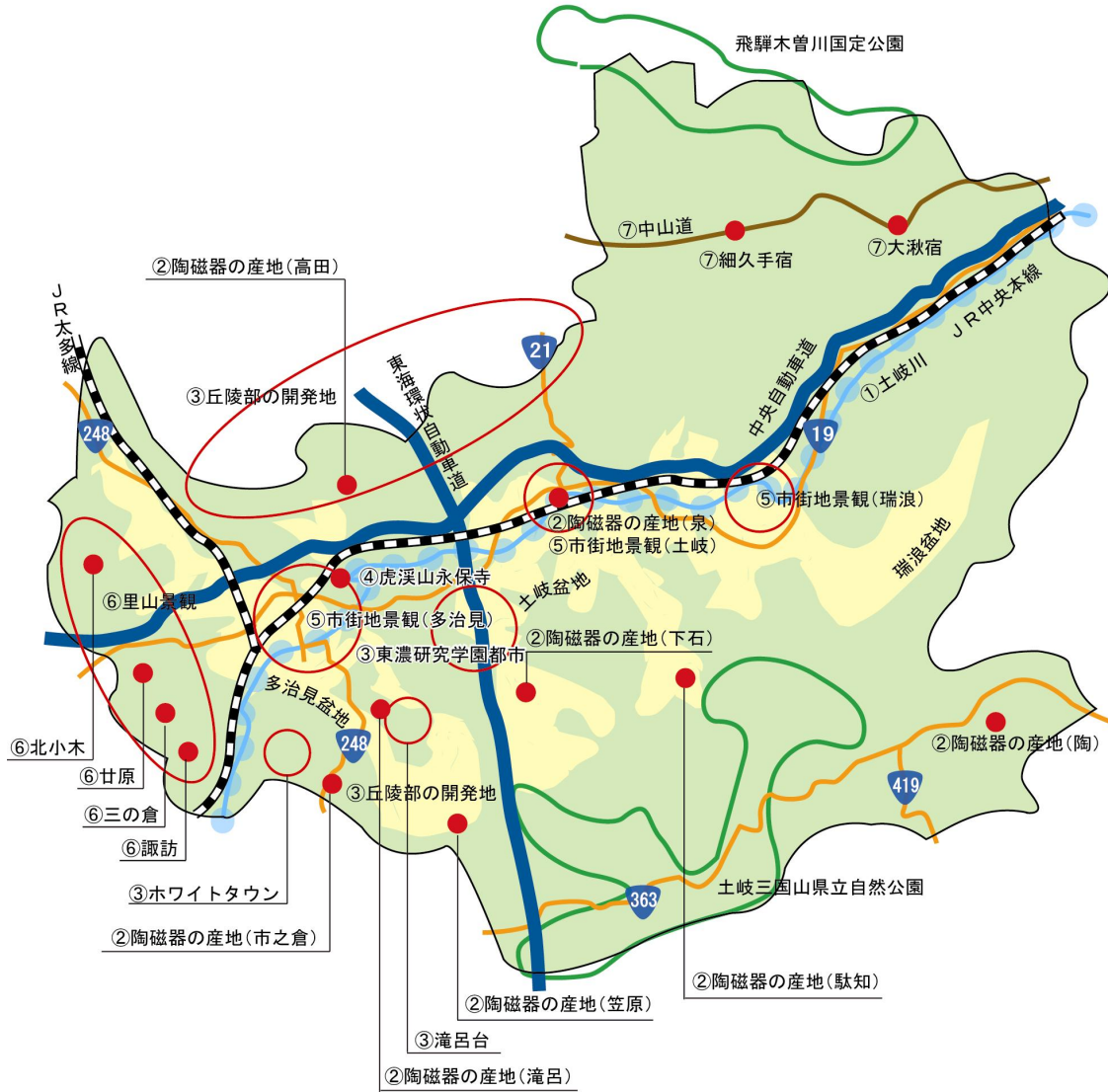


⑦ 東濃西部地域			
<p>■ 該当市町村</p> <p>多治見市、瑞浪市、土岐市、笠原町</p>		<p>■ 区域</p> 	
<p>■ 景観上の特性</p>			
地形・自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中央部を流れる土岐川沿いにゆるやかな丘陵部が広がり、その両側に山間部がそびえるV字型の地形で、多治見盆地、瑞浪盆地、土岐盆地等を形成している。</li> </ul>	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地周囲の丘陵部は、緑が豊かな斜面林を形成し、土岐三国山県立自然公園などの自然公園の指定を受けている場所もあるが、一部ではゴルフ場、住宅地等が開発されている。また、東濃研究学園都市構想に関連する整備が進められている。</li> <li>美濃焼の産地であり、地域全体に多くの製陶所や陶磁器関連施設が立地している。</li> <li>地域の中央部を、中央自動車道、国道19号、JR中央本線が通り、これらの周辺に市街地が形成されている。</li> </ul>
軸線	<p>地域の骨格を形成する軸線として、次のものがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河川：土岐川</li> <li>道路：中央自動車道、東海環状自動車道、国道19号、21号、248号、363号、419号</li> <li>鉄道：JR中央本線、太多線</li> </ul>		

■景観構造図

東濃西部地域



- |       |                 |                    |      |
|-------|-----------------|--------------------|------|
| 山間エリア | 谷・盆地エリア         | 河川                 | 河川景観 |
| 鉄道    | 高速道路            | 国道                 | 街道   |
| 自然公園  | 田園、群生地等、大規模開発地等 | 歴史・伝統文化的要素、その他の拠点等 |      |

■景観形成方針

①土岐川沿いのうるおいのある河川景観の形成

- ・土岐川には自然がよく残されており、また桜並木や遊歩道の整備がされるなど、土岐川沿いに形成されている多治見市、瑞浪市、土岐市の市街地における貴重な水辺の空間を形成している。
- ・市街地において身近な自然と触れ合える場として親水的な整備を行うとともに、周辺の土地利用に当たっては、水辺の景観に配慮することにより、うるおいのある河川景観の形成が必要である。

土岐市土岐川河川公園



②陶磁器産地としての景観の形成

- ・わが国有数の陶磁器産地であり、市之倉や滝呂、下石、泉、駄知、陶等各地で古窯跡、陶芸村、陶磁器関連施設や製陶事業所等が多く見られ、陶磁器産地の雰囲気醸成が醸し出されている。
- ・笠原町のタイルを使用した建築など、地場産品を活かした景観形成が必要である。

土岐市織部の里公園（古窯跡）



③丘陵部における自然景観の保全

- ・市街地を取り囲む盆地の丘陵部の豊かな緑は県立自然公園に指定されるなど、市街地や地域の中央を通る中央自動車道、JR中央本線等からの眺望にうるおいを与えている。
- ・丘陵部の一部ではホワイトタウンや滝呂台等の住宅団地、ゴルフ場や採土場等の開発により、山並みの連続感が失われつつあるため、丘陵部における自然景観の保全を図る必要がある。

多治見市の市街地を取り囲む丘陵部



④歴史的・文化的資源を活かした景観の形成

- ・ 虎溪山永保寺等の歴史的・文化的資源は、地域の貴重な財産である。また、これらの周囲には緑地や公園を有するところも多く、住民の憩いの場ともなっている。
- ・ まちに残る寺社などの歴史的・文化的資源の保全に努めるとともに、周囲の緑地や公園の整備を図りつつ、これらを活かした景観の形成が必要である。

虎溪山永保寺



⑤市街地における美しい都市景観の形成

- ・ 多治見市、土岐市及び瑞浪市の市街地では、周辺の環境や景観に配慮し、公共施設のデザインの工夫や修景整備をはじめ、小広場、公園、緑地などのオープンスペースの確保など、市街地における美しい都市景観の形成を図る必要がある。

多治見市の市街地



⑥里山の景観の保全

- ・ 農業や林業を営む人々の暮らしと、田畑や雑木林等の自然が密接な関係を保ってきた多治見市の甘原町、三の倉、諏訪、瑞浪市の日吉等の里山は、残されているものの、開発や生活の変化によって少なくなっている。
- ・ こうした市街地の近くに残されている里山の景観の保全を図る必要がある。

甘原町の里山



⑦中山道の宿場町を活かした歴史的な景観の形成

- ・地域北部の丘陵部における集落には、中山道が通り、山間の細久手、大湫の宿場町には、江戸時代から現在も営業を続ける旅籠をはじめ、当時のまち並みや石畳、石碑等が残されている。
- ・集落における人々の生活との調和を図りながら、中山道の宿場町を活かした歴史的な景観の形成を図ることが必要である。

大湫宿

